M 情報　2026　９月　　護蹄研究会について　　阿部

８月 29，30 日　東京の日本獣医生命大学（日獣大）において護蹄研究会を開催しました。今回も 100 名を超える参加があり、活発な討論が行われました。

なお、来年は７月中旬、広島県で行うことに決まりました。

以下はプログラムの抜粋です：

基調講演：　牛の蹄はどうできているか～構造から機能まで　保坂善真（九州大学）

教育講演：　肢蹄の健康と乳牛改良：蹄病をﾀｰｹﾞｯﾄとして　馬場俊見（日本ﾎﾙｽﾀｲﾝ登録協会）❶

話題提供：　我が国における口蹄疫の対応　中越万由子（農林水産省消費・安全局動物衛生課❷

ビデオ講習：　牛の取り扱いと跛行　ジェラード・クラマー（ミネソタ大学）❸

一般口演：　① 機能的削蹄（令和版）の効果　沖田太一（有限会社ライズ）

② ホルスタイン種成乳牛における 2 種類の削蹄法による後肢蹄形および荷重の追跡比較調査　浅原彩乃（②，③　酪農学園大学）

③ フリーストール飼養環境が乳用育成牛の後肢蹄形および着地へ及ぼす影響の比較解析　村中果

④ ＣＴ画像で見る骨も美しい削蹄　眞鍋弘行（削蹄塾わたりがらす）

⑤ 農場における趾皮膚炎の発生状況と蹄浴槽内の薬液における衛生状態の評価　永井佑季（株式会社ゆうべつ牛群管理サービス）

⑥ 電気伝導度を用いた蹄浴薬液交換適期の検討　野坂歩（酪農学園大学）

⑦ 乳用種成牛において確認された銅中毒　永野由佳（福岡県中央家畜保健衛生所）❹

⑧ 牛の趾間過形成の原因因子と治療方針の検討　（⑧，⑨）阿部紀次（THMS）

⑨ 牛の外傷 3 症例から考える創傷治癒― 治りやすい環境をどう作るか ―❺

⑩ 初産牛の蹄底潰瘍及び白帯病のリスク因子解析　中村聡志（株式会社ノースベッツ）

特に質問が来ていた発表内容を黄色くしてみました。

❶護蹄研究会としてもホル協の取り組みに参加して、乳牛改良のために、削蹄師や獣医師のデータを取り入れることについて話し合いたいものと思っています。

❷今年 1 月新千歳空港の検疫で、ヤギ肉の持ち込みを摘発し、検査したところ口蹄疫ウイルスを認めた事例を含め、いよいよの水際はとてもシリアスな状況であることを教えてくださいました。

❸これが今回一番の食いつきでした。今後このビデオは護蹄研究会で販売することにします。

❹蹄浴槽の硫酸銅液を飲むからなのか・・・4 頭の成乳牛が銅中毒で死亡したという福岡の事例が紹介されました。

❺手前味噌ながら・・・これも質問が多かった演題です。「治りが良いという事は薬だけではない」という内容でしたが、やはり薬のことは気になる様でした。右の挿絵は創傷治癒のイメージ図です：

